



菊池学園公開授業 伊野小学校 校内研修

令和4年9月13日(火),伊野小学校で公開授業と学校版寺子屋を行いました。

第5学年社会科「米づくり」の単元の授業でした。単元の終末で「学級ディベート」に取り組むという構成でした。本時は「小麦粉の輸入をやめて、米粉にかえるべきである」という論題で「学級ディベート」を行いました。



①肯定側立論
単元を通して学んだ課題について考える事を通して、立論を作る。

②否定側質疑
肯定側立論の根拠となるデータの信ぴょう性を問う。

③否定側第一反駁
立論⇒質疑⇒反駁の流れを意識させて述べる。

論題 小麦粉の輸入をやめて 米粉にかえるべきである

<p>肯定側立論</p> <p>肯定 〇〇〇</p> <ul style="list-style-type: none"> 体にやさしい アレルギーの子と食べかたがとどめる 多くの栄養素がある 	<p>否定側質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> ← 小麦の料理と体によい 小麦の輸入と関係なく 	<p>否定側第一反駁</p> <ul style="list-style-type: none"> 米粉は調理しにくい 小麦粉の味になっている 小麦粉 安い
<p>否定側立論</p> <p>否定</p> <ul style="list-style-type: none"> 調理をしにくい 中々に固くなる 味がかわる 	<p>肯定側質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> 保存方法とかわるか... 小麦粉と調理方法は変わらない ← 何かとかわらぬ味は変わらない 	<p>肯定側第一反駁</p> <ul style="list-style-type: none"> 小麦粉 値段上がっている <u>輸入</u> ①アレルギーの子と食べかた 多くの栄養

①否定側立論
根拠を伴った立論を作る。

②肯定側質疑
否定側立論の根拠の弱い部分を質問する。

③肯定側第一反駁
質疑を通してより強くなった反駁を述べる。

授業者より

- ・1学期は、「価値語の植林」「成長ノート」に取り組み児童同士をつないでいった。
- ・「成長ノート」を活用して、児童と担任がつながった。
- ・学級に一人一人の居場所がある学級づくりを行ってきた。
- ・2学期に入り、「学級ディベート」に取り組み始めた。
- ・一人一人に役割を持たせることで、活躍できる場面を作った。
- ・「チーム力」を発揮して、支援の必要な児童に対しても支え合う姿が見られた

(参考:伊野小学校事後研通信)



研究協議より

①意見を持ちやすい活動の設定

- 立場を決めて行う学級ディベートを通して児童が対話できると思った。
- 一人一人の役割がしっかりしている。
- 役割が自信につながる。
- 話し合いがスムーズであった。
- 準備段階から友達同士の発信力がある。
- 調べ学習の積み重ねが大切。
- 小麦粉・米粉という、身近な論題であった。
- △社会科としてのキーワードが欲しかった。

②自分の意見に自信を持たせる工夫

- コミュニケーションスキルも取入れる。
- 役割があるから発信せざるを得ない。
- 発表のさせ方が大切。
- 調べ学習から今日の学級ディベートへ。
- データの事前の準備が大切。
- 児童が調べた資料が良かった。
- 調べることで、相手を落とし込むこともできる。
- 調べたことを発表するというのは、自分の考えとして意見を持つ自信につながる。

③発信力を自覚させる工夫

- 繰り返し発表させることが大切である。
- 子どもに情報を持たせて意見を出させることが発信力につながる。
- ジェスチャーも発信力。
- 意見に根拠を持たせる。
- 自分が伝えたい思いを大切にする。
- 最後は自分の言葉で語らせる。
- 審判の言葉。根拠が大切。
- 「米粉」等の社会の授業で習った言葉を使って発表できていたことが良かった。



グループ協議の様子

グループ別発表



菊池先生より



- 立論から質疑へのつながりを意識させる。
- 反駁では、立論からの流れを作ること。
- 本時までの「米づくり」の課題をきちんと押さえておくこと。
- 本時の後にもう一時間「アフターディベート」として位置付け、振り返りを行うとよい。
- 審判の判定について、教師がその判定でよかったのか、もう一段高い所から検証することで、判定力が伸びる。

(参考:伊野小学校事後研通信)

学校版寺子屋「少人数による話し合いのある授業」

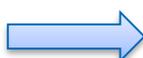
「未来の創造」へシフトチェンジ

1989年に新学力観が提唱されました。そこから学習指導要領の改訂はありましたが、基本的に学力観はそこから変わっていません。それまでの問題解決学習というのは「教科書を教える」という側面が強かったです。

しかし、なかなかその教え方が変わっていません。いの町は、「知識や情報を覚える」のではなく、「未来を創造する」学びを目指しています。そのために、子どもたちは対話の仕方を身に付けた方がよいのです。もちろん知識を覚えることも大事ですが、少し「未来の創造」へシフトしませんか？

知識や情報を覚える

1989年以前の古い学力観



未来の創造

現行の学習指導要領が示す学力観

教師の「権力」乱用に注意

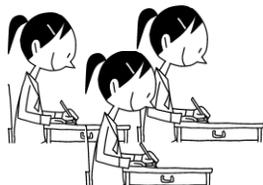
最近のキーワードは「尊敬と権力」です。普通子どもに使う言葉は「尊重」ではないでしょうか。「尊重」と「尊敬」の違いは何でしょう。「尊重」は上から目線だというイメージがありませんか。私は子どもを「尊敬」しています。正解のない問いに対して、教師と子どもは一緒に向かっていくものだと思っているからです。

また、教師は前に立つだけで「権力者」になるということを忘れてはいけません。「黙れ、座れ、動くな」と権力を振りかざしていませんか？ディベートのような話し合いをしていると、黒板が子どもに開放され、少人数による話し合いがなされます。教師の権力を薄めることができるのです。

教師の権力が強いと、教室は一見落ち着きます。先生と子どもとはつながっているからです。しかし、次の年に荒れます。これは子ども同士が繋がっていないことが原因です。教師が枠を決めてしまう授業から、幅のある授業へ…つまり正解のない問いを求め、「未来を創っていく授業」を目指しましょう。

あなたの教室はどっち？

- ① 静か
- ② 座っている
- ③ 先生が黒板に書く



先生が授業の枠を決めている

- ① 話し合う
- ② 動く
- ③ 先生も子どもも黒板に書く



先生は子どもの視界から消える

学校版寺子屋「少人数による話し合いのある授業」

10分～15分話し合わせるために

10分～15分話し合わせましようと言っていますが、ルールもないのに対話することは難しいのです。話し合うための技術や態度、あり方を育てるために、ディベートは一つの有効な手段だと考えています。対話の流れを知ること、他の場面でも話し合えるようになります。決して「ディベートをさせること」が目的ではありません。

話し合いのステップとは？

スタート

論題(話し合う事柄)を決める

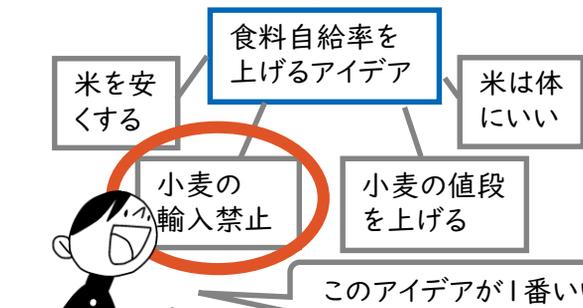
日本の米づくりの問題点とは？



①問題を出し合う



②どの問題が一番深刻か選ぶ



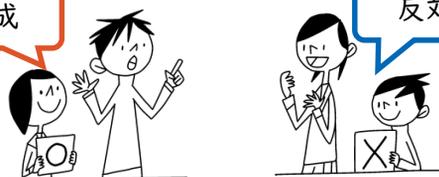
③一番良いアイデア(論題)を決定

ディベート的話し合いをする

日本は小麦の輸入をやめて米粉にかえるべき

賛成

反対



①AかBか立場を決め、理由を考える

賛成です。その理由は...



②意見を主張する

※相手チームも主張

賛成派に質問します。



③相手の主張に質問する

※相手チームも質問



③反論する

参加者の感想より(抜粋)

学校の体制や学級, 授業づくりについて

- 学校全体で, 目標に向かって研鑽している。
- 支援の必要な子にも役割を与え活躍の場があった。学級づくりの大事な要素を含んでいたと思う。
- 菊池メソッドが丁寧に実践されている。
- 菊池実践を行うことで子どもたちに良い輪が広がっていくように感じている。
- 一人一人の意見を大切にするために, 計画していた論題も変更したのではと感じさせられる内容でした。こういう積み重ねが, 一人の意見を全体へ広げる土台づくりにつながると思いました。
- ディベートを通して, 子どもたち一人ひとりに役割があてられることで発言する力, 聞く力などが身に付ききっかけになると思いました。

学校版寺子屋について

- 授業参観の視点について, 菊池先生が大事なポイントを押さえ能動的に解説していただいたと思う。
- 尊敬と尊重の違い, 教員の権力を改めて感じました。知らず知らずに押さえつけていることもあるので, 必要なことかどうか, 高圧的な言い方になってないかを意識しながら子どもと接していきたい。
- 尊敬と権力の話, 心にしみました。権力の乱用にはならないけれど, 規律もある, 温かさのある学級について考えていきたいと思いました。
- 児童生徒の実態に応じて, 「ディベートを学ぶ」「ディベートで学ぶ」段階があることが, よく分かりました。また, 立論, 質疑, 反駁を振り返り, 伸ばすべき部分を焦点化した評価の必要性を感じました。

参考になった点

- 「尊重」ではなく「尊敬」という菊池先生の言葉が刺さりました。
- 今後の課題として, ディベートを教科指導にどのように位置づけしていくか, 学習内容, 学習用語を使った資質能力ベースの授業の転換が必要になってくると考える。
- 学級ディベートは見ていると難しそうに思ったが, 菊池先生の話聞いていて子どもたちのコミュニケーションの流れがディベートに繋がると感じた。子どもたちが繋がる, 深める対話を意識した声かけをしていく必要がある。
- 児童生徒が根拠を大切にされた発言ができるようにするためには, 指導者側の意図ある発問や評価が重要であることが分かりました。自分自身, 相手に伝わりやすい表現を意識した学校生活を送りたいと思いました。

研究所より

伊野小学校の皆様, 授業公開ありがとうございました。参加者から「ディベートの実際が見られて良かった」という感想がありました。伊野小学校では校内研修でディベートの目的や効果について, 全職員で共有し, 公開授業の準備をしていました。校内寺子屋では, ディベートをすることが目的なのではなく, 話し合いの仕方を学ぶ手立てだということをお聞きしました。新しい授業観へのヒントになりました。

いの町教育研究所 Tel893-1922(教育委員会事務局内) Tel893-0255(資料センター)